島根県指定史跡　川本町指定文化財

丸山城跡

石見小笠原氏の城館跡散策マップ

川本町観光協会　TEL 0855-74-2345(平日のみ9:00～17:00)
〒696-0001　島根県邑智郡川本町大字川本608-1
URL https://www.kawamoto-kankou.jp/

川本町商工会　TEL 0855-72-0123(平日のみ9:00～17:00)
〒696-0001　島根県邑智郡川本町大字川本558-10
URL http://kawamoto.shoko-shimane.or.jp/

監修 川本町教育委員会〈社会教育係〉

丸山城とはどんな城か?

丸山城跡は、まさに円山と呼ぶにふさわしい円錐形の優美な山の上に築かれています。標高482mの頂上一帯には、本丸や西ノ丸など12箇所の「曲輪」と呼ばれる平坦地が見られ、その範囲は約9,000㎡ほどもあります。なお、登城道のある斜面や山裾を含む遺跡全体の広さは約640,000㎡（指定面積は836,646㎡）ほどで、ほぼ同じ面積が江戸時代の幕府管理地として記録に残っています。

平成２～７年度に町教育委員会により発掘調査され、総石垣づくりで防御施設がほとんど見られない特異性や、文献に残る築城から廃城の時期「天正11～19年（1583～1591年）」と発掘調査成果が一致することが明らかとなり、平成６年に町史跡に指定されました。その後、平成27年度の石垣、出土品、関連山城跡等の再調査により、遺跡の時期や範囲が確認され、県史跡に指定されました。

川本町三原から見る円山（丸山城跡）

丸山城は誰が造ったのか?

石見小笠原氏は、甲斐国小笠原村（現在の山梨県南アルプス市）を名字とする甲斐源氏を祖先とする信濃小笠原氏の一族が、南北朝時代に川本郷を得て成立したと考えられています。天文11（1542）年以降に守護大内氏と結んで、川本町域のみならず邇摩郡や那珂郡まで勢力を拡大します。永禄２（1559）年に毛利元就との戦いに敗れ、居城の温湯城から退去、毛利氏の家臣として江の川北岸の甘南備寺に居住しました。その後、福屋氏の滅亡を機に石見東部地域における最大勢力となり、本拠地三原地域で丸山城を築城することとなります。この動乱の時代、忘れてはならないのが石見銀山の争奪戦です。小笠原氏の運命は銀山が、銀山の運命は小笠原氏が握っていたと言っても過言ではないでしょう。

小笠原氏と丸山城の歴史

1295年（永仁３年）	小笠原長親阿波池田より来援[1]し、益田氏女、美夜を娶[2]る。河本郷及びその周辺を領有し、村之郷へ移ると伝わる。
1390年（明徳元年）	室町幕府、河本郷と吉永郷地頭職を小笠原長弘に安堵[3]する。
1507年（永正４年）	小笠原長隆、大内義興に従い上洛する。
1559年（永禄２年）	小笠原氏、毛利氏に従う。
1583年（天正11年）	この頃、丸山城の築城開始という（完成は13年）。
1592年（天正20年）	毛利氏、小笠原氏に出雲国神西への国替を命じる。

１来て助けること　２妻として迎える
３中世、土地の所有権・領有権・知行権などを幕府・領主が公認したこと

石見小笠原氏系図

- 加賀美遠光　信濃守
  - 小笠原長清
    - 長経　信濃小笠原氏
    - 長房　阿波守護　阿波小笠原氏

石見小笠原氏

- 初代　長親（ながちか）　益田兼時の娘「美夜姫」と結婚　川本を領有
- 2代　家長（いえなが）
- 3代　長胤（ながたね）　この頃、温湯城築城開始　※築城時期については諸説あり
- 4代　長氏（ながうじ）
- 5代　長義（ながよし）
- 6代　長教（ながのり）　甘南備寺に寺領を寄進（祈願寺）
- 7代　長性（ながなり）
- 8代　長直（ながなお）
- 9代　長弘（ながひろ）
- 10代　長正（ながまさ）　湯谷長江寺を創建
- 11代　長定（ながさだ）
- 12代　長隆（ながたか）　石見国の守護に任命　銀山を支配下に置く
- 13代　長徳（ながのり）
- 14代　長雄（ながかつ）　温湯城合戦で毛利氏に敗北（温湯城落城）
- 15代　長旌（ながはた）　丸山城築城　毛利氏により出雲神西に転封

小笠原氏系図

小笠原氏の先祖は、源義光から出ているという。義光から３代後の遠光は加賀美（現南アルプス市）を本拠として加賀美氏を称した。その次男長清は加賀美の西隣の小笠原に居館を構え、小笠原氏を称するようになったという。〈川本町誌による〉

川本町地図

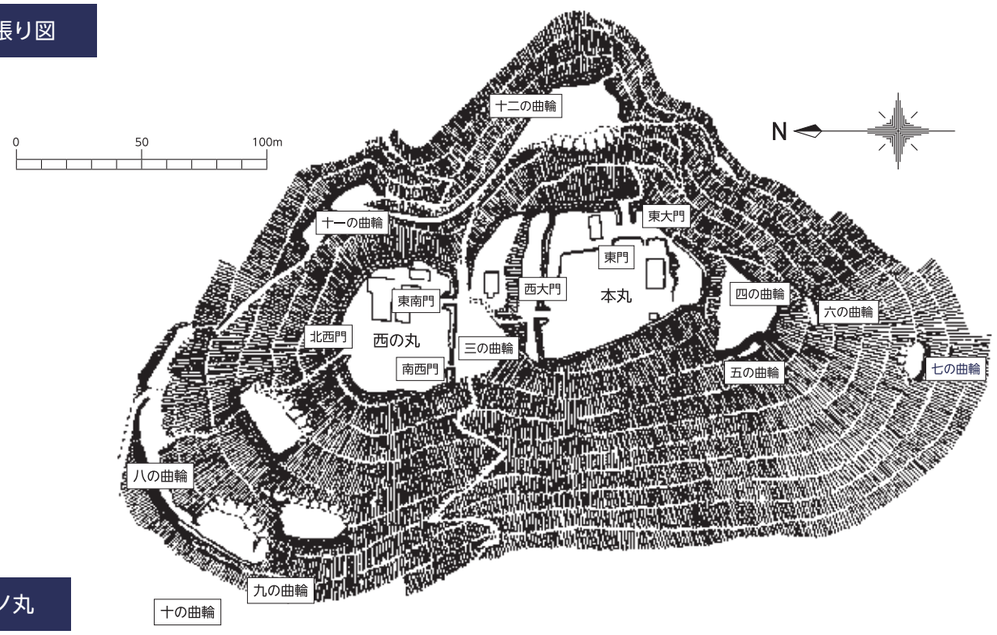
貘頭玉枕〈長江寺所蔵〉

長隆が京都船岡山の合戦での戦功を賞された際に足利義稙より拝領したものと伝えられています。中国伝来とされるこの玉枕には貘とされる獣骨が納められています。

湯谷温泉　みせん荘（長江寺隣り）

TEL.0855-72-2645
〒696-1222 島根県邑智郡川本町大字湯谷781-2
営業時間
【温泉】10:00～20:00(最終受付19:00)
【レストラン】[昼]11:00～14:00(LO13:45)
[夜]17:00～19:00(LO18:45)
※夜は土日祝のみ
定休日　月曜日(祝日の場合は翌日)

丸山城縄張り図



本丸と西ノ丸

丸山の山頂には二つの大きな平坦地「本丸」と「西ノ丸」があり、そこからは三原盆地全域と、遠く日本海までを見渡すことができます。本丸は東側に大門があり、東側を正面とする石垣造りで、内部はさらに石垣で一段高く仕切られ、会所（公式な会議の場）があったと考えられています。北側にも門があり西ノ丸に通じています。

西ノ丸は、本丸より８m低く、本丸側に２箇所、北側に１箇所の門があり、周囲は本丸同様、石垣が回っています。内部には発掘調査で礎石建物跡４棟や、カマドなどが発見されています。また、文献資料から城主の日常的な住まいと考えられています。

本丸と西ノ丸は、その間の通路や広場である三の曲輪とあわせて、ひとつの「館」と見ることができます。そして他の山城と異なり、防御施設がほとんど無く、本来は山麓にあるべき館を、そのまま山頂に造ったかのような特異性が最も重要な特徴と言えます。

小笠原丸山傳記

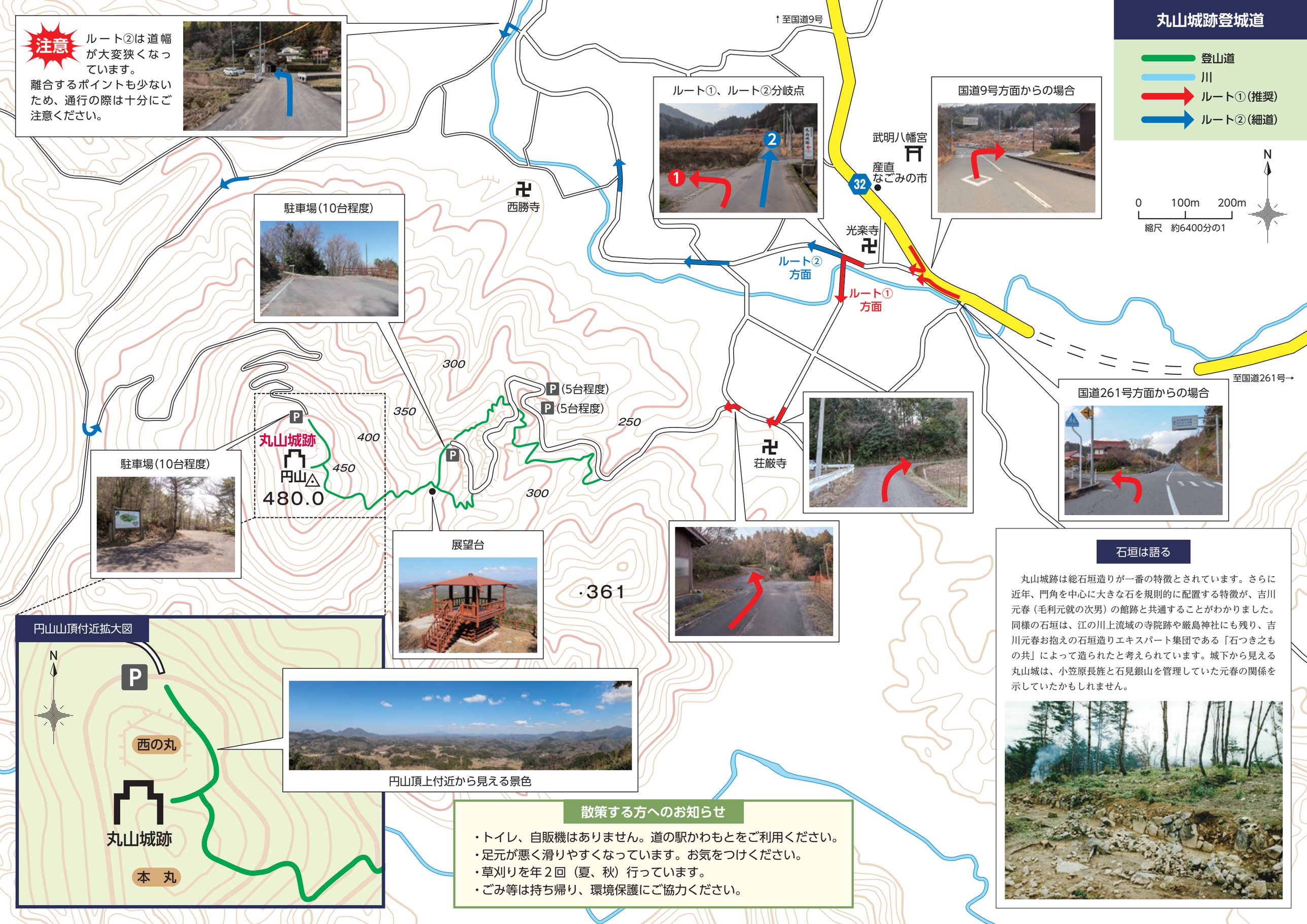
石見小笠原氏の歴史について記した上・中・下の３巻から成る書物です。丸山城が石見小笠原氏の居城であった頃の出来事について書かれた貴重な史料でもあります。但し、江戸時代に成立したと伝えられており、伝記として脚色した記述も多いため、歴史的事実と異なる内容も含まれています。なお、原本は現存しておらず、写真のものを含め、写しが数点存在するだけとなっています。

最強の山城「温湯城跡」

小笠原氏が造った最強の山城跡で、江の川と街道（石見銀山と毛利・吉川氏の本拠地を結ぶ道）が交わる戦略上最も重要な場所に位置します。山城本体は、標高約200mの山頂に主郭（本丸）をおく約600m×200mの範囲に築造されており、敵の侵入を防ぐための堀切が何重もあり、竪堀や切岸などが配置される様は、まさに「戦国時代の城」にふさわしいものです。この難攻不落の城も、永禄二年（1559年）に毛利元就の攻撃で、城主小笠原長雄は籠城の末に落城しました。丸山城築城24年前のできごとです。最近の調査で、周囲の山上には会下山城跡など毛利方が兵を配した陣城跡が、温湯城を取り囲むように配置されていることが明らかとなりました。

丸山城跡登城道

登山道
川
ルート①（推奨）
ルート②（細道）



注意　ルート②は道幅が大変狭くなっています。
離合するポイントも少ないため、通行の際は十分にご注意ください。

ルート①、ルート②分岐点

国道9号方面からの場合

駐車場（10台程度）

国道261号方面からの場合

駐車場（10台程度）

展望台

円山山頂付近拡大図

円山頂上付近から見える景色

石垣は語る

丸山城跡は総石垣造りが一番の特徴とされています。さらに近年、門角を中心に大きな石を規則的に配置する特徴が、吉川元春（毛利元就の次男）の館跡と共通することがわかりました。同様の石垣は、江の川上流域の寺院跡や厳島神社にも残り、吉川元春お抱えの石垣造りエキスパート集団である「石つき之もの共」によって造られたと考えられています。城下から見える丸山城は、小笠原長旌と石見銀山を管理していた元春の関係を示していたかもしれません。

散策する方へのお知らせ

・トイレ、自販機はありません。道の駅かわもとをご利用ください。
・足元が悪く滑りやすくなっています。お気をつけください。
・草刈りを年２回（夏、秋）行っています。
・ごみ等は持ち帰り、環境保護にご協力ください。